

令和元年度 血液事業概要

# あゆみ

第69号 令和2年7月



# 目次

---

所長あいさつ .....	2
令和元年度 新聞記事 .....	4
沿革 .....	6
第43回日本血液事業学会総会 発表演題 .....	13
組織体制 .....	14
献血の概況 .....	16
献血推進の概況 .....	18
骨髄ドナー登録事業 .....	21
検査・製剤の概況 .....	22
供給の概況 .....	24
医薬情報活動の概況 .....	25
統計資料 .....	26
令和元年度 表彰 .....	32
令和元年度迄の献血記録 .....	34

## 所長あいさつ

---



群馬県の血液事業の推進につきましては、日頃より県民の皆様をはじめ、これを支えてくださる献血協力団体、ボランティア、県・市町村、医療機関及び関係各位の方々にご支援ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の感染被害等に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

令和元年度は「令和」という新しい時代の幕開けでもありますが、前年と変わらぬご支援ご協力を皆様から賜り、県内の医療機関からの輸血用血液製剤の要請に不足することなく供給することができました。重ねて御礼申し上げます。

令和元年度は延べ89,369人（対前年比104.6%）の献血協力をいただきました。献血者を年代別に見ますと、40代が全体の29%、50代が26%と、全体の半分以上を占めていますが、10代（16歳から19歳）が7%、20代が13%と、20代以下の献血者数が全体の20%にとどまっております。今日の日本はご存じの通り少子高齢社会を迎えており、これから更に少子高齢が進む中で輸血用血液製剤を安定的に供給するためには、より多くの若年層の献血協力が必要となります。そのため、群馬県赤十字血液センターでは、若年層を対象とした献血実施や献血セミナーを積極的に開催しています。令和元年度においては、群馬県内にある82校の高等学校のうち51校に献血バスを配車し、3,022人の生徒に献血協力をいただきました。また、群馬県支部主催の高校生リーダーシップ・トレーニング・センターにおいて、輸血経験のある講師をお招きしてご講演いただきました。参加された生徒さんには命の大切さと献血の大切さを実感していただけたことと思います。

令和元年度における輸血用血液製剤の供給本数は、換算本数293,578本（対前年比100.8%）でした。前年度比は微増でしたが、複数年で見ますと医学の進歩や自己血輸血の普及等により供給本数は減少傾向にあります。一方、病院からの輸血用血液製剤の要請は、患者さんの負担軽減や副作用発生リスクの減少のため約96%が400mL献血由来の

---

輸血用血液製剤となっております。令和元年度においても400mL献血の推進を積極的に行い、400mL率94.2%のご協力をいただきました。

日本赤十字社では平成30年10月から複数回献血クラブ新会員サイト「ラブラッド」の運用を開始いたしました。当サイトでは献血会場の確認、献血のWeb予約及び検査結果の確認等が可能となっております。令和元年度は献血をよりスムーズにご協力いただくため、当センターでは他の都道府県に先駆けて積極的に移動献血バスの予約を導入するなど、Web予約を推進いたしました。今後も多くの方に「ラブラッド」にご登録いただき、Web予約による献血のご協力をお願い申し上げます。

令和元年度末には、新型コロナウイルス感染症による外出自粛・テレワーク等の影響を少なからず受けました。しかし、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」において献血を実施する採血業は、緊急事態宣言時においても事業の継続を求められるものであり、不要不急に当たらないとされております。感染症防止対策による新しい生活様式が提言されているところですが、献血においても献血者の安全を第一と考え、感染防止に努めてまいります。

今後も職員一同、なお一層の取り組みを進め、より安全な輸血用血液製剤の安定供給に向け引き続き努力してまいりますので、皆様方におかれましても、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに令和元年度の実績をとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

令和2年4月  
群馬県赤十字血液センター  
所長 丸 山 健 一



### 献血継続者に感謝状

県赤十字血液センターが、これまで頑張り続けた献血継続者に感謝状を贈り、来店客に協力を呼び掛けた。

感謝状贈呈式には県内の29人が出席した。これまでに18回献血した前橋商業高3年の松田英介さんは「命を救える簡単なボランティア。表彰はうれしい」と笑顔になった。300回献血した高橋市の自営業 鈴木順平さん(69)は年齢を以て献血できるのが来年4月までだとし、「もう少し」

県赤十字血液センターは「丸山健一所長」は「たい」と話した。冬は献血する人が減るウオーク前橋で「献血や子ども向けの模擬献血、感謝デー」と題したイベントを開いた。献血を継続した人に感謝状を贈り、来店客に協力を呼び掛けた。

感謝状を受け取る鈴木さん

上毛新聞 令和元年11月24日(日)

### サンタが献血呼び掛け

前橋で大学生キャンペーン

県内の大学生でつくる県学生献血推進連盟(矢島輝也会長)は22日、前橋市の買い物客らに献血協力を呼び掛ける学生サンタキャンペーンを開き、サンタクロース姿で市民に献血協力を呼び掛けた。

サンタの衣装に身を宛んだ学生4人は「買い物ついでに献血協力をお願いします」と声を掛け、献血の必要性を訴えていた。参加した群馬大2年の上原涼平さんは「同年代の若者に献血の重要性を訴えていきたい」と話した。

イベントは冬季の献血者不足の解消や新規の協力者数の増加が目的で、全国学生タリスマス献血キャンペーン(2019)の一環として開かれた。献血協力を呼び掛ける学生サンタの提供やパルーンアートのプレゼントなどもあった。

上毛新聞 令和元年12月23日(月)

### 献血で社会貢献

県生命保険協会

県生命保険協会(小出和久会長)は17日、太田市の日本生命太田支社で献血一斉活動を行った。市内に支社や営業所を置く生命保険会社の社員が協力、社員は間接的に血を届けた。

献血に励んだ写真。同協会は年3回、前橋と太田で献血一斉活動を行っている。担当者は「社会貢献活動として、これからの協力していきたい」と話していた。

上毛新聞 令和2年1月18日(土)

### 献血に協力を

池江選手が呼び掛け

白血病と闘っている競泳女子の池江璃花子選手(19)は、ツイッターで5日、献血を呼び掛けた。

池江選手は約10カ月の入院生活を経て昨年12月に退院して2024年パリ五輪を目指す意向を表明している。自身の経験で「輸血の大切さは身に染みて感じています」とした上で「献血の激減により、不安な日々を過ごしている方もいます。そして、命を繋いでいる方もいます。1人でも多くの人の命を救えるよう、私からお願いです」とつづった。

上毛新聞 共同通信配信 令和2年3月6日(金)

### 献血継続者に感謝状

県赤十字血液センターが、これまで頑張り続けた献血継続者に感謝状を贈り、来店客に協力を呼び掛けた。

感謝状贈呈式には県内の29人が出席した。これまでに18回献血した前橋商業高3年の松田英介さんは「命を救える簡単なボランティア。表彰はうれしい」と笑顔になった。300回献血した高橋市の自営業 鈴木順平さん(69)は年齢を以て献血できるのが来年4月までだとし、「もう少し」

県赤十字血液センターは「丸山健一所長」は「たい」と話した。冬は献血する人が減るウオーク前橋で「献血や子ども向けの模擬献血、感謝デー」と題したイベントを開いた。献血を継続した人に感謝状を贈り、来店客に協力を呼び掛けた。

感謝状を受け取る鈴木さん

上毛新聞 令和2年1月27日(月)

# 沿革

## ●1962年（昭和37年）

- 8.15 県、市町村の援助により血液銀行を新築[建設面積 209.51㎡]
- 9. 1 初代所長 久保園善次郎就任（兼前橋赤十字病院院長）
- 10.20 血液銀行採血業許可証認可となる（厚生省群策第9472号）  
医薬品製造業認可証認可となる（第8356号）  
医薬品販売業認可証承認となる（第43号）  
群馬県赤十字血液銀行の業務開始  
移動採血車第1号（2ベッド）を整備  
愛称を県民より募集し「(おおとね号)」と決まる  
ABO式血液型（オモチ・ウラ）Rho 式血液型  
梅毒血清学的検査（ガラス板法・緒方法）  
O型力価測定（Low、High）実施



## ●1964年（昭和39年）

- 8.21 閣議決定（献血の推進について）
- 9. 肝機能検査（S-GOT）開始

## ●1965年（昭和40年）

- 2.13 血液銀行を血液センターに改称
- 8.13 移動採血車おおとね2号（3ベッド）を整備
- 8.16 第2代所長 吉野文郁就任

## ●1966年（昭和41年）

- 3.31 事務室、保存室、検査室を増築（全建設面積 381.08㎡）となる

## ●1967年（昭和42年）

- 2.24 血液運搬車車庫を新築（45.37㎡）

## ●1968年（昭和43年）

- 3.26 移動採血車おおとね3号（2ベッド）を整

備（採血車3台となる）

- 9. 4 移動採血車第1号を廃車（37年整備）（採血車2台となる）

## ●1969年（昭和44年）

- 3. O型力価測定廃止

## ●1970年（昭和45年）

- 1.24 開設以来延べ献血者10万人達成
- 9. 不規則抗体スクリーニング検査開始

## ●1971年（昭和46年）

- 4. 1 血液代金差額について国庫補助を受ける（昭61.3.31廃止）
- 4.15 群馬県交通安全保障協会より血液運搬車1台寄贈
- 7. 1 HBs抗原検査開始（SRID法）開始
- 9. 4 移動採血車車庫を新築（108㎡）

## ●1972年（昭和47年）

- 1. 1 免疫電気泳動法（IES法）にてHBs抗原・抗体検査を開始
- 3.23 移動採血車おおとね1号（3ベッド）を整備（採血車3台となる）

## ●1973年（昭和48年）

- 6.21 赤十字アルブミン20販売開始
- 11.20 移動採血車おおとね2号（4ベッド）を更新（40年整備）

## ●1974年（昭和49年）

- 4. 1 血液代金自己負担金給付制度開始（昭61.4月廃止）
- 9.24 成分製剤11品目の許可を受ける

## ●1975年（昭和50年）

- 1.15 はたちの献血キャンペーンはじまる
- 8.19 移動採血車おおとね3号（4ベッド）を更新（43年整備）
- 10. 梅毒検査緒方法よりRPR法に変更

## ●1976年（昭和51年）

- 10. 2 成分製剤2品目追加許可を受ける
- 11.27 トヨタ・カローラ群馬、カローラ高崎より献血運搬車1台寄贈

## ●1977年（昭和52年）

- 6. 7 上毛新聞社「愛の募金」より献血運搬車



- 1 台寄贈
- 12. 1 物置を新築28.32㎡

## ●1978年（昭和53年）

- 3. 4 開設以来延べ献血者数50万人達成
- 10. 1 HBs抗原検査IES法よりR-PHA法に変更

## ●1979年（昭和54年）

- 11. 1 採血容器を瓶からバッグに全面変更する
- 11.26 移動採血車おとね5号（5ベッド）を整備（採血車4台となる）

## ●1980年（昭和55年）

- 3.26 検査サービス室、製剤準備室を増設（本館全建物面積 417.14㎡）
- 7. 肝機能検査S-GOTよりS-GPTに変更
- 10. 1 献血登録制を始める

## ●1981年（昭和56年）

- 5. 7 生化学的検査機器ACA6008Nを導入
- 6. 2 抗HBs人免疫グロブリン「日赤」の販売開始
- 9. 1 生化学的検査結果の異常者への通知を開始  
肝機能異常者でHBs抗原陽性者へ通知を開始
- 12.18 日本石油より献血運搬車 日産 セドリック（ミスターセイフティー号）1台寄贈

## ●1982年（昭和57年）

- 4. 1 献血手帳の一部改正となる（供給記録欄を削除）  
生化学的検査結果全員通知を開始
- 8.27 移動採血車おとね1号（4ベッド）を更新（47年整備）
- 9. 1 HBs抗原検査結果陽性者に通知を開始

## ●1983年（昭和58年）

- 8. 9 開設以来延べ献血者100万人達成

## ●1984年（昭和59年）

- 3. 8 血液製剤1品目（分画プラズマ）の製造許可を受ける
- 4. 5 赤十字アルブミン50供給販売開始
- 7.24 移動採血車おとね3号（4ベッド）を更新（50年整備）
- 12.20 県、市町村の補助を受け血液センターを新築移転（建物面積2,660.07㎡、車庫480㎡、物置7.2㎡）

- 12.24 医薬品製造業許可第8581号を受け業務開始  
血液センター採血業許可証 厚生省収薬第34214号  
成分製剤2品目の追加製造承認を受ける



## ●1985年（昭和60年）

- 3.28 HBワクチン用製剤2品目追加製造許可を受ける
- 7.30 移動採血車おとね6号（4ベッド）を整備（採血車5台となる）
- 3.31 国庫金による血液代金給付制度廃止

## ●1986年（昭和61年）

- 4. 1 採血及び供血幹旋業取締法施行規則の一部改正（400mL・成分献血が導入）  
第3代所長 藤井佐司就任  
群馬県献血推進員2名設置
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更（ACA6008NよりACA8000へ）
- 9.12 移動採血車おとね2号（4ベッド）を更新（48年整備）
- 9.16 多目的血球計数装置E-4000整備
- 10. 1 HTLV- I 抗体検査開始（PA法）
- 10.16 HIV抗体検査開始（ELISA法）
- 11. 6 成分採血装置V50整備し成分採血を開始
- 12.18 血液検査（血算）サービス開始
- 12.23 移動採血車おとね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）

## ●1987年（昭和62年）

- 7.31 開設以来延べ献血者150万人達成
- 10. HIV抗体検査 ELISA法よりPA法に変更
- 10. 7 プラズマコレクターシステム整備

## ●1988年（昭和63年）

- 1.21 自動血液型判定機（グルバマチック2000）

# 沿革

システム整備)

- 5. 1 献血者自己申告制度 (HIV) 開始
- 9.28 大相撲大鵬親方より献血運搬車 トヨタ  
コロナ (大鵬号) 1台寄贈

## ●1989年 (平成元年)

- 1. 8 移動採血車おおとね5号 (5ベッド) を更新 (54年整備)
- 2.10 神戸義二氏より献血運搬車カローラ (神戸号) 1台寄贈
- 3.15 成分採血装置CS3000整備
- 3.31 登録・パーソナルコンピュータ (NEC 5200) 整備
- 12.27 HCV抗体検査 (ELISA法)、HBc抗体 (HI法) 開始

## ●1990年 (平成2年)

- 3. 6 成分採血装置オートフェレーシスC整備
- 5.21 オープン献血実施
- 6.25 バクスター社より器材運搬車 トヨタ ハイエース1台寄贈
- 10. 8 移動採血車 (おおとね6号) 成分採血併用型に改造し採血車での成分採血を開始
- 12. 1 コンピュータトータルシステム (NEC) 整備
- 12.20 オープン採血用成分採血機材運搬車 (コースタービッグバン) 整備

## ●1991年 (平成3年)

- 3.11 成分採血装置NDP整備
- 4. 1 凝固因子製剤用原料血漿確保始まる (50万L)
- 9.16 4週6休制施行実施。
- 9.30 開設以来延べ献血者数200万人達成
- 12.25 群馬県骨髄データセンター業務開始

## ●1992年 (平成4年)

- 1.21 赤血球M・A・P (日赤) 製造許可を受ける
- 1.31 HCV抗体検査ELISA法からPHA法に変更
- 3. 1 国内自給に向け凝固因子製剤の供給販売開始 (クロスエイトM250、500、1000)
- 6. HCV陽性者通知開始 (通知基準による)
- 12. 3 赤血球M・A・P (日赤) 製造開始
- 12.19 移動採血車おおとね1号 (4ベッド) を更新 (57年整備)

## ●1993年 (平成5年)

- 2. 1 新登録者カード発行

- 4. 1 群馬県輸血懇話会設立
- 5. 1 成分採血装置ヘモネティクスMCS整備
- 10. 1 高崎出張所を設置 (高崎熱血倶楽部) イーストタワービル1階に開設
- 10.15 移動採血車おおとね7号 (4ベッド) を廃車 (採血車5台となる)

## ●1994年 (平成6年)

- 2.27 群馬県献血フェスティバル開催 (伊勢崎市民文化会館)
- 3.28 4週8休制度施行実施
- 5.18 血液X線放射線照射装置 (MRB-1520A-TV) 整備し依頼による照射血液供給を開始
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更 (ACA8000より日立7250へ)
- 9. 1 コンピュータ全国統一センターシステム (NEC) 整備  
成分採血装置ミニオートフェレーシスC整備
- 11. 7 移動採血車おおとね3号 (4ベッド) を更新 (59年整備)

## ●1995年 (平成7年)

- 6. 1 自動感染症検査機器PK7200を整備

## ●1996年 (平成8年)

- 3.28 検診車の整備
- 4. 1 第4代所長に松山四郎就任  
第3代所長藤井佐司名誉所長に就任
- 6.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車  
スバル インプレッサ1台寄贈
- 9. 1 献血者全員の試験官方式による検体保管開始
- 9. 3 採血番号ラベルシート (IDカード) 10桁に変更
- 9.26 開設以来延べ献血者数250万人達成
- 10. 出庫可否判定における検査履歴照会開始
- 11.30 お年玉付郵便葉書寄付金より血液運搬車  
三菱 レグナム1台寄贈

## ●1997年 (平成9年)

- 1.30 移動採血車 (お年玉付郵便葉書寄付金) おおとね6号 (4ベッド) を更新 (60年整備)
- 3.13 移動採血車おおとね2号 (4ベッド) を更新 (61年整備)
- 4. 1 医務課長設置により組織並びに処務規定の一部改正 (2部1データセンター9課1出張所17係) 改組
- 9. ヒトパルボウイルスB19抗原検査の評価

試験開始

- 10. 1 職員定数100名となる
- 12.28 血液X線照射装置 (MBR-1520A-TM) を追加整備 (2機となる)

## ●1998年 (平成10年)

- 2. 1 梅毒検査RPR法よりTPPA法に変更
- 3.19 オープン献血会場で血小板採血を開始
- 4. 1 週休2日制実施  
職員定数105名となる
- 7. 1 放射線照射血液が承認され薬価により供給開始 (全血、赤血球M・A・P、濃厚血小板)
- 9. 1 前橋出張所 (前橋ハートランド) 大同生命前橋ビル1階に開設
- 12.21 放射線照射血液が追加承認され供給開始 (洗浄赤血球・白血球除去赤血球・解凍赤血球・合成血)

## ●1999年 (平成11年)

- 1.26 沖電気工業より保冷库付血液運搬車寄贈  
日産 AD マックスバン保冷库付
- 2. 1 原料用血漿について当日以外の服薬者よりPPPのみの採血始める
- 2.26 移動採血車おとね7号 (4ベッド) を整備 (採血車6台となる)
- 3. 5 前橋中央ライオンズクラブより魚八景ジュニア1台寄贈
- 4. 1 採血基準の改正により献血年齢69歳まで引き上げとなる
- 5.12 統一システム全国献血者一元管理に移行となる
- 6. 2 群馬県赤十字有功会より東芝液晶データプロジェクター1台寄贈 (創立20周年記念)
- 9. 1 核酸増幅検査 (NAT) 開始

## ●2000年 (平成12年)

- 1. 1 HTLV-1抗体検査陽性者に通知開始
- 2. 1 核酸増幅検査 500本プールより50本プール検査に変更
- 2.29 県の助成を受け血液センター1階部分を全面改修 (供給部門に血液製品用保存室、製剤部門に二次更衣室等新設)、一部増築
- 3.17 ヒトパルボウイルスB-19抗原検査正式導入となる
- 5.16 NAT済み血小板供給を開始
- 7.26 群馬県学生献血推進連合による献血キャラバン隊を編成し県内11市長に献血推進メッセージを届ける (28日まで)

8.28 血液センター増築及び改修工事開始

- 10. 3 検診車整備 日野 リエッセII
- 11.26 高崎出張所開設以来延べ献血者10万人達成

## ●2001年 (平成13年)

- 2. 移動採血車おとね9号 (4ベッド) 整備 (採血車7台となる)
- 3.30 県の補助を受け増築及び改修工事竣工 (1,746.58㎡を増築し、総延べ床面積4,406.65㎡) となる
- 4. 1 第5代所長に大月邦夫就任
- 5.22 HCV抗体検査、リエントリー開始
- 7. 3 血液センター増改築竣工記念式典
- 8. 6 赤十字アルブミン25販売開始
- 12.28 開設以来延べ献血者数300万人達成

## ●2002年 (平成14年)

- 2.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車  
日産 ウィングロード1台寄贈
- 4. 1 太田出張所「太田YOU愛」を東毛学習文化センター前に設立  
HCV抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始により、HCV抗体検査陽性者希望者全員に通知を開始
- 4.10 太田出張所「太田YOU愛」東毛学習文化センター前に開設業務開始
- 7. 5 DONOR CARD集発刊
- 7.31 薬事法及び採血及び供血あっせん業取締法の一部を改正され名称も「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に変更され公布される  
移動採血車おとね5号 (5ベッド) を廃車 (採血車6台となる)
- 12.31 移動採血車おとね1号 (4ベッド) を廃車 (採血車5台となる)

## ●2003年 (平成15年)

- 4. 1 HBc抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始によりHBc抗体検査陽性者全員に通知を開始
- 6. 1 ホームページ開設  
高崎出張所改修及び増設工事竣工 (81.33㎡を増設し総延べ床面積283.37㎡) となる
- 6.13 献血者の献血歴の確認 遡及調査の実施 (梅毒・HBV・HCV及びHIV)
- 10. 1 高崎出張所 (高崎熱血倶楽部) 10周年記念式典

# 沿革

12.12 高崎出張所開設以来延べ献血者15万人達成



## ●2004年（平成16年）

- 1.30 2ヶ月間（60日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 3.31 供給冷凍室（貯留保管用）増築工事竣工（46.15㎡を増築し、総延べ床面積4,452.8㎡）となる
- 6.20 第二次血液事業統一システム導入
- 8.15 献血後情報の対応手順の変更（平16.7.30付厚生労働省「輸血用血液等遡及調査に関するガイドライン」に基づき）
- 8.28 核酸増幅検査50本プール検査より20本プール検査に変更
- 8.31 90日間貯留保管済みFFPの供給開始
- 10. 1 献血者本人確認全国実施
- 12.28 120日間貯留保管済みFFPの供給開始

## ●2005年（平成17年）

- 3.31 150日間貯留保管済みFFPの供給開始
- 4. 1 第6代所長に土田嘉昭就任  
群馬県献血メールクラブの開始
- 7.29 6ヶ月間（180日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 11. 1 第7代所長に遠藤敬一就任

## ●2006年（平成18年）

- 3. 1 成分採血由来製剤の保存前白血球除去の実施
- 7.13 群馬県立県民健康科学大学のオープン献血会場を皇太子殿下がご視察  
第42回献血運動推進全国大会開催（群馬県総合スポーツセンター）  
サンデン株式会社より血液運搬車 日産エクストレイル1台寄贈  
富士重工業株式会社群馬製作所より血液運

搬車 スバル フォレスター1台寄贈  
群馬県病院協会、（社）群馬県医師会、（社）群馬県歯科医師会、（社）群馬県薬剤師会、（社）群馬県看護協会より器材運搬車 いすゞ エルフ1台寄贈

- 8.28 日赤ポリグロビンN注5% 2.5g/50mLの販売開始
- 9.15 日赤ポリグロビンN注5% 0.5g/10mL、日赤ポリグロビンN注5% 5.0g/100mLの販売開始
- 9.23 保存前白血球除去された成分採血由来新鮮凍結血漿製剤の供給開始
- 10. 1 献血カードの導入  
検査業務が埼玉県赤十字血液センターへ集約
- 10.26 血小板成分採血における保存前白血球除去及び初流血除去の実施



## ●2007年（平成19年）

- 1.16 全血採血由来赤血球製剤の保存前白血球除去及び初流血除去の実施
- 3. 3 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車 スバル インプレッサ1台寄贈
- 8. 1 保存前白血球除去された全血採血由来新鮮凍結血漿製剤の販売開始
- 11.14 有効期間「採血後4日間」に変更となった血小板製剤の供給開始

## ●2008年（平成20年）

- 2. 8 血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法（CLEIA法）へ変更（同年8月全国で導入）
- 7.21 輸血用血液製剤の新バーコード表示による製造開始
- 7.23 初流血除去を実施した成分採血由来新鮮凍結血漿の供給開始
- 8. 新NATシステムへ切り替え（HIV-1グルー

プロ及びHIV-2の検出も可能)

## ●2009年（平成21年）

- 1.29 前橋出張所改装工事竣工
- 2.11 前橋出張所「前橋ハートランド」10周年記念イベント開催（於 ユナイテッド・シネマ前橋）
- 3.10 移動採血車おとね3号（4ベッド）を整備
- 3.15 糖尿病関連検査（グリコアルブミン検査）の開始
- 4. 1 第8代所長に小泉武宣就任  
高崎出張所（高崎熱血倶楽部）の定休日が第4月曜日に変更
- 4.23 移動採血車おとね2号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 11.23 第1回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.28 血漿分画製剤の販売名の変更に伴い、日赤ポリグロビンN5%静注5g/100mLの販売開始。他の血漿分画製剤に関しても新販売名の製剤を順次販売開始

## ●2010年（平成22年）

- 1.27 1980年から1996年の英国滞在歴の献血制限が「1日以上」（1泊以上）から「通算1ヶ月以上」（31日以上）に緩和
- 2. 5 血小板製剤及び成分採血由来血漿製剤の販売名の変更に伴い、（照射）濃厚血小板-LR「日赤」と（照射）濃厚血小板HLA-LR「日赤」の供給開始。成分採血由来血漿製剤については6ヶ月間（180日間）貯留保管後、順次供給開始
- 2.13 高崎城ライオンズクラブより医療用デジタル体重計1台寄贈
- 5.31 血液センター2階間仕切り改修工事竣工
- 11.23 第2回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.14 高崎出張所高崎熱血倶楽部採血業務を廃止
- 12.15 高崎出張所高崎駅献血ルームHarmony（JR高崎駅東口3階イーサイト内）業務開始
- 12.28 血球計数検査サービス（8項目）を200mL全血献血へ拡充開始

## ●2011年（平成23年）

- 2.15（財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッ



高崎駅献血ルームHarmony

- ド）を整備（採血車6台となる）
- 3. 7 移動採血車おとね7号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 4. 9 東日本大震災対策支援要員として職員を派遣（計5回）
- 7.27 赤十字アルブミン5%静注12.5g/250mLの販売開始
- 8.16 群馬県より〔平成23年度献血・骨髄ドナー登録推進業務（緊急雇用創出事業）〕委託を受託（9.1実施）
- 11.23 第3回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

## ●2012年（平成24年）

- 4. 1 広域事業運営体制の開始（1部 1データセンター 6課3出張所 19係）改組
- 8. 6 献血血液の検査基準の変更  
輸血後のB型肝炎対策として「HBc抗体（C.O.I.）1.0以上12.0未満かつHBs抗体価200mIU/mL未満」の献血者に対する献血制限の実施
- 10. 1 シャーガス病に係る安全対策開始
- 11.23 第4回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



# 沿革

## ●2013年（平成25年）

- 1.16 「献血の同意説明書」の導入
- 1.26 日赤ポリグロビンN10%静注5g/50mL、日赤ポリグロビンN10%静注10g/100mLの販売開始
- 2. 4 太田出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事開始
- 3. 8 災害救護機材配備（タブレット型PC端末5式）
- 3.25 災害救護資材配備（雨衣・防寒着）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事完了
- 5. 2 太田出張所太田献血ルーム業務開始
- 9. 3 成分採血由来の新鮮凍結血漿の容量を450mLから480mLに変更。  
3つの製剤規格容量を整数倍へ（120mL、240mL、480mL）
- 11.24 第5回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



太田献血ルーム

## ●2014年（平成26年）

- 1.28 災害救護機材配備（ノート型PC端末2台、デジタルカメラ1式）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 第9代所長に林 泰秀就任
- 5.11 血液事業情報システム稼働（供給部門）
- 6.25 血液事業情報システム稼働（全部門）
- 8. 1 個別NAT検査開始
- 9.29 関東甲信越ブロックでの血小板製剤分割開始
- 10. 1 検査サービス通知書（ハガキ）新様式開始
- 11.24 第6回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

## ●2015年（平成27年）

- 2.23 前橋出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 災害救護資材配備（発電機1台）
- 2.28 前橋出張所前橋献血ルーム業務開始
- 3.10 災害救護資材配備（スノーダンプ5台、スコップ10本、ストーブ3台）
- 3.25 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血漿分画製剤の全製剤販売終了
- 7. 8 北関東高校献血打合せ会開催
- 11.22 第7回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）

## ●2016年（平成28年）

- 2. 2 （財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッド）を整備
- 2.19 災害救護資材配備（ADバン）
- 3.20 献血模擬体験「キッズ献血」を実施（於 イオンモール高崎）
- 3.30 移動採血車おとね9号を廃車
- 4. 1 ALT検査による製品除外基準の変更  
血液センター広報誌Yell創刊
- 9.13 照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給開始
- 11.23 第8回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
- 12.16 災害救護資機材配備（スチールラック）

## ●2017年（平成29年）

- 2.27 血小板採血調整システム稼働
- 2.28 災害救護資材配備（トラベルバッグ）
- 3.20 第2回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
- 3.22 災害救護資材配備（ヘルメット）
- 3.24 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 献血者の不規則抗体スクリーニングの検査法変更



前橋献血ルーム

- 5.18 国際ソロプチミスト前橋より献血広報車  
スバル インプレッサ1台寄贈
- 11.18 全社統合情報システム導入
- 11.26 第9回献血感謝デー開催（於 けやき  
ウォーク前橋）
- 12.19 災害救護資材配備（テント）
- 2018年（平成30年）
  - 2.21 災害救護資材配備（非常食）
  - 3.21 第3回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
  - 4. 1 第10代所長に丸山 健一就任
  - 10.29 献血推進・予約システム（CMS）導入
  - 11.25 所長感謝状贈呈式開催（於 けやきウォー  
ク前橋）
  - 12. 6 災害救護機材配備（スポットエアコン2台、  
ダクト2本）
- 2019年（平成31年、令和元年）
  - 1. 6 第10回献血感謝デー開催（於 けやき  
ウォーク前橋）
  - 2.19 災害救護資材配備（非常食）
  - 3.21 第4回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
  - 10.24 第11回献血感謝デー（於 けやきウォー  
ク前橋）
  - 12.17 災害救護機材配備（大判インクジェットプ  
リンター）
- 2020年（令和2年）
  - 3.25 災害救護資材配備（非常食）

## 第43回日本血液事業学会総会 発表演題

会期：令和元年10月2日（水）～10月4日（金） 会場：仙台国際センター

### 「模擬バッグを使った実技研修 ～輸血現場の実態把握に向けて～」

伊藤浩志、坂倉慶太、寺田誠、上村政彦、町田孝一、丸山健一

### 「皮膚消毒不備への取り組み ～特定要因図を用いた品質改善検討～」

大村美保、古谷亜紀、都丸冷子、樋下田二三子、齋藤添江、黒澤悦子、樺澤玲子、竹内えつ子、  
町田孝一、丸山健一

# 組織体制

## 群馬県赤十字血液センター



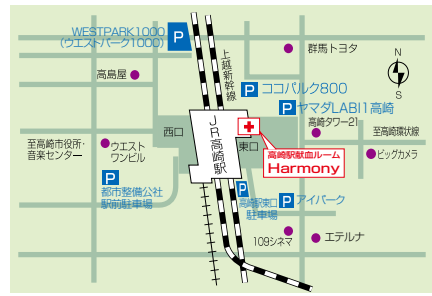
- 所在地 〒379-2154  
群馬県前橋市天川大島町  
2-31-13
- 開設年月日 昭和59年12月20日
- 敷地面積 3,835.73 ㎡
- 建物の構造 本館棟／鉄筋コンクリート造  
地下1階 地上2階  
(塔屋付)  
別館棟／鉄骨造 地上3階  
(塔屋付)
- 延床面積 4,452.8㎡

### 高崎駅献血ルームHarmony

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00  
14:00～17:30  
成分献血／10:00～12:30  
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 325.58㎡
- ベッド数 11ベッド  
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒370-0849 群馬県高崎市八島町222 JR高崎駅東口3階 イーサイト内  
TEL027-327-8139 FAX027-327-8143



### 前橋献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00  
14:00～17:30  
成分献血／10:00～12:30  
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 310.19㎡
- ベッド数 10ベッド  
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒371-0805 群馬県前橋市南町3-9-5 (大同生命ビル1F)  
TEL027-220-5522 FAX027-220-5523

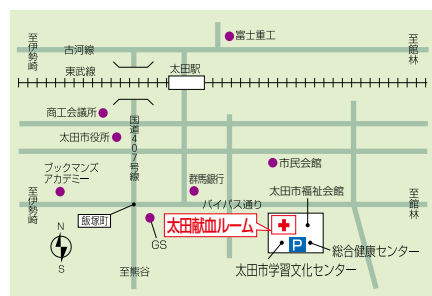


### 太田献血ルーム

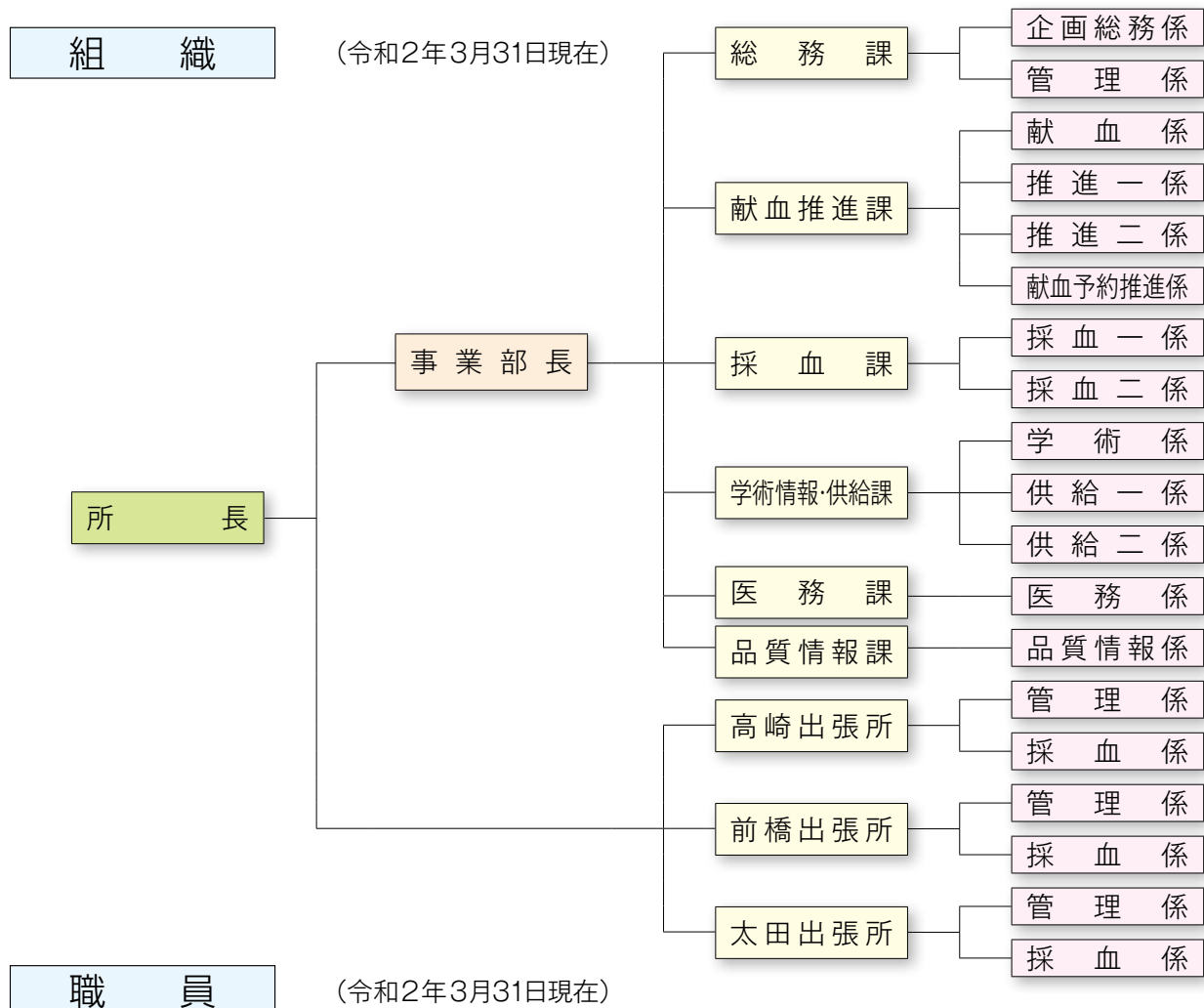
- 受付時間 全血献血／10:00～13:00  
14:00～17:30  
成分献血／10:00～12:30  
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 396㎡
- ベッド数 10ベッド  
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549-2 (太田市学習文化センター前)  
TEL0276-60-3300 FAX0276-49-3300

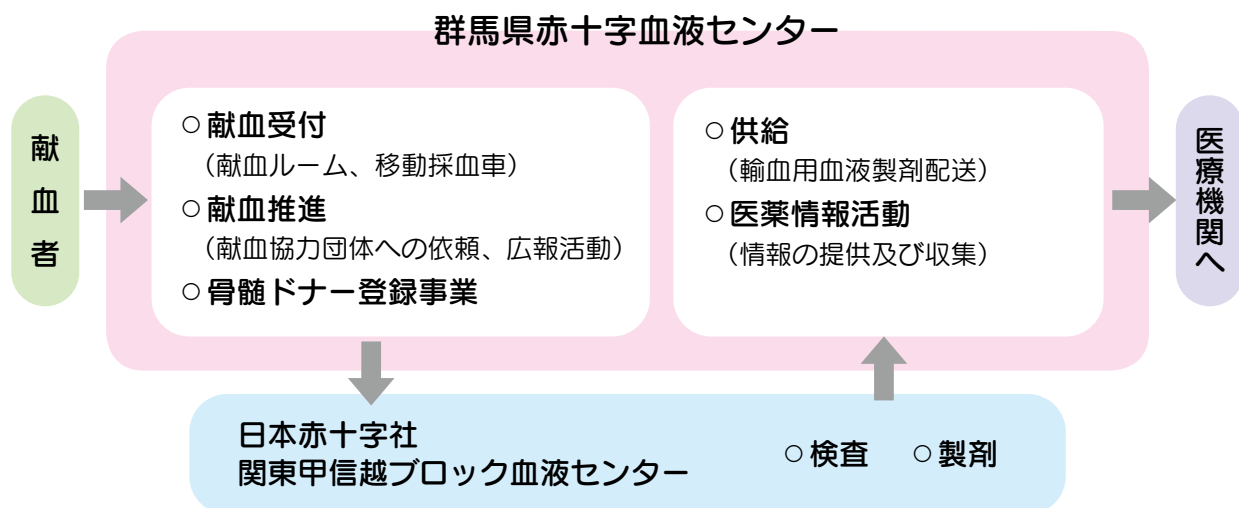






医師	薬剤師	看護師	事務職員	合計
1	2	31	59	93

## 群馬県赤十字血液センターの業務の流れ



# 献血の概況

令和元年度、県民の皆様のご理解とご協力をいただき、県内で延べ 89,369名の献血協力をいただきました。おかげさまで県内の各医療機関へ輸血用血液製剤を滞りなく供給することが出来ました。また、血漿分画製剤用血漿の国内需給に向けその確保に努めることが出来ました。

献血者数については、受付者数 97,744名（前年度比102.1%）、献血者数 89,369名（前年度比104.6%）という結果でした。

献血種類別の内訳は全血献血者数 57,433名（前年度比102.5%）、成分献血者数 31,936名（前年度比108.7%）となっております。

詳細をみてみますと、全血献血者数のうち400mL献血者数は 53,786名（前年度比101.7%）、200mL献血者数は 3,647名（前年度比115.5%）となりました。200mL献血を1単位として換算すると 111,219単位（前年比102.1%）の確保をすることができました。また、全血献血中の400mL献血構成比は93.6%（前年比0.8%減）となりました。

成分献血者数のうち血小板成分献血者数は 7,963名（前年度比83.0%）、血漿成分献血者数は 23,973名（前年度比121.1%）でした。

献血推進対策としては「400mL全血献血、成分献血の推進」、「献血協賛企業の増加」、「複数回献血者（ラブラッド会員）の促進」及び「若年層献血者確保」を重点的に努めました。更に、県内のスポーツ団体との協力体制を構築し、キャンペーン活動やEメール、SNSを活用する等の対策を講じて広く県民の皆様へ啓発を行うことが出来ました。

今後も引き続き輸血用血液製剤の「更なる安全性の向上」及び「安定的な確保」を最重要課題として取り組んでまいります。

## 1 献血ルーム

### ■高崎出張所：愛称「高崎駅献血ルーム Harmony」

「高崎駅献血ルーム Harmony」は、交通やショッピングに便利なJR高崎駅東口ローサイト内に平成22年12月15日に開設しました。駅構内という好立地にあり、内装は「音楽のある街高崎」をイメージしたものとなっております。また、多くのボランティア団体に協力をいただいております、日々多くの献血者の方で賑わっております。

364日開設：受付者数 21,768名

献血者数 20,042名（1日平均献血者数55.1名、施設別構成比22.4%）

献血種類別では全血献血者数が8,886名（構成比44.3%）、内400mL献血者8,364名（400mL献血率94.1%）成分献血者数が11,156名（構成比55.7%）

### ■前橋出張所：愛称「前橋献血ルーム」

「前橋献血ルーム」は、県内2番目の献血ルームとして、JR前橋駅南口の大同生命ビル1階に、平成10年9月1日に開設いたしました。また平成27年2月には、ロビーを陽だまりのような空間をイメージにリニューアルいたしました。皆様のご支援ご協力と高等学校インターアクトクラブをはじめ多くのボランティアの方々に支えられております。

364日開設：受付者数 17,527名

献血者数 16,253名（1日平均献血者数は44.7名、施設別構成比18.2%）

献血種類別では全血献血者が5,944名（構成比36.6%）、内400mL献血者5,761名（400mL献血率96.9%）成分献血者が10,309名（構成比63.4%）

### ■太田出張所：愛称「太田献血ルーム」

「太田献血ルーム」は太田市飯塚町の東毛学習文化センター（現太田市学習文化センター）前に、平成14年4月10日に開設いたしました。県内一の広さを誇り、全国的に珍しい単独平屋建ての施設です。平成25年5月2日には、広々としたロビーのカジュアルなオープンスペースのカフェスタイルにリニューアルオープンしました。また、環境に配慮した街づくりを目指す太田市に倣い、ソーラーシステムを導入したエコな献血ルームです。

364日開設：受付者数 18,452名

献血者数 17,131名（1日平均献血者数47.1名、施設別構成比19.2%）

献血種類別では全血献血者が6,660名（構成比38.9%）、内400mL献血者6,558名（400mL献血率98.5%）成分献血者が10,471名（構成比61.1%）

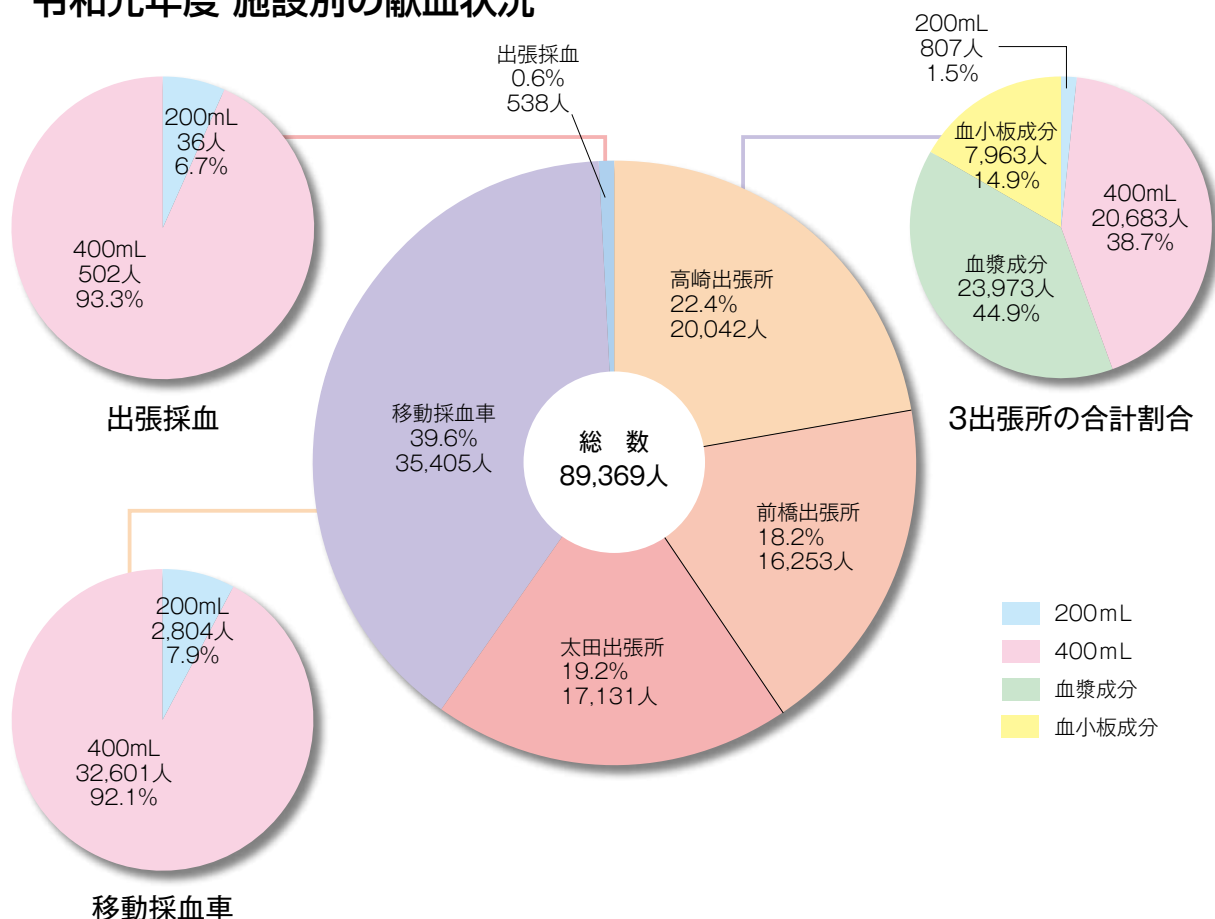
## 2 移動採血車

全血献血者の受入れを主として4台の移動採血バスで運用をしています。延べ746台が県内の各献血会場で献血者の受入れを行いました。受付者数は 39,389名、献血者数は 35,405名（1台平均47.5名）でした。なお、全血献血に占める400mL献血構成比は92.1%で前年度比1.0%の減少となりました。

## 3 出張採血

移動採血バスの配車が困難な場所において会議室等を献血会場にして実施する出張献血を、11会場で行いました。受付者数は 607名、献血者数は 538名でした。

### 令和元年度 施設別の献血状況



# 献血推進の概況

## 広報・キャンペーン活動

### 1. プロスポーツ団体とのコラボ事業

ラグビーチーム「パナソニック ワイルドナイツ」との  
献血推進ポスター作成



### 2. 第10回夏休み親子献血教室

日程 令和元年7月30日（火）  
会場 群馬県赤十字血液センター前橋出張所  
関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所  
内容 献血から輸血用製剤が出来るまでの基礎知識の学習  
献血ルームの見学（献血模擬体験）  
埼玉製造所の見学（製造部門、検査部門）  
後援 群馬県教育委員会・株式会社エフエム群馬  
・群馬テレビ株式会社・上毛新聞社  
協力 群馬県・前橋市



### 3. 第11回献血感謝デー

日程 令和元年11月24日（日）  
会場 けやきウォーク前橋  
内容 献血功労者表彰式、献血実施、救急法講習、献血模  
擬体験、骨髄バンクドナー登録会、アトラクション  
(K i i <LIVE>、いわしピクニック<LIVE>、沢  
入国際サーカス学校<サーカスパフォーマンス>、  
えっちゅう<お笑いLIVE>)、献血クイズ など  
後援 株式会社エフエム群馬・群馬テレビ株式会社・上毛  
新聞社  
協力 群馬県・日本赤十字社群馬県支部・群馬県学生献血  
推進連盟



#### 4. 全国学生クリスマス献血キャンペーン

日程 令和元年12月22日（日）  
会場 けやきウォーク前橋  
内容 学生ボランティアによる献血の呼びかけ及び  
献血協力者へオリジナルグッズを進呈  
主催 群馬県学生献血推進連盟



#### 5. はたちの献血キャンペーン

期間 令和2年1月1日（水）～令和2年2月29日（土）  
（1）「はたちの献血」イベント  
日程 令和2年1月26日（日）  
会場 スマーク伊勢崎（1階 はるなプラザ ほか）  
内容 パナソニック ワイルドナイツ選手による血液センター1日所長委嘱式及び広報（島根一磨 選手、竹山晃暉 選手）、県内大学生・高校生によるパフォーマンス（書道、大道芸、ダンス）、学生ボランティアによる献血広報及び献血啓発活動 など  
主催 群馬県  
協力 パナソニック ワイルドナイツ・日本赤十字社群馬県支部・群馬県学生献血推進連盟・群馬県立女子大学・群馬県立前橋高等学校・群馬県立伊勢崎清明高等学校

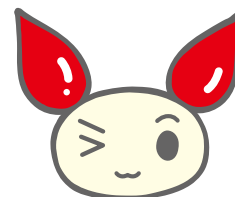


#### 6. 広報誌 Yeil（エール）

年1回発行

## 複数回献血クラブ「ラブラッド」について

平成30年10月、「複数回献血クラブ」は会員の方へのサービス向上を目的としたリニューアルを行い、愛称名を全国で「ラブラッド」に統一しました。ラブラッドにご登録いただくと、全国の固定施設を対象に献血のWeb予約が簡易にできるようになり、血液の検査結果も献血後2～7日程度といち早くわかるようになります。また、全国共通のポイント制度の導入により、一定のポイント数で記念品が交換できるほか、住所やメールアドレスの変更などのお手続きもWeb上で行うことが可能となります。



令和元年10月より、群馬県赤十字血液センターでは全国の血液センターに先駆けて、Web予約の対象会場として4つの移動献血バスの会場（スマーク伊勢崎、イオンモール高崎、イオンモール太田、けやきウォーク前橋）を追加しました。令和元年10月から令和2年3月末までの間に、対象会場67回の実施で延べ954名の方にご予約いただき、851名の方にご協力いただきました。（平均予約者数14名、平均協力者数13名）

また、ラブラッド会員の方々への献血依頼・要請にかかるメール・LINE配信も日々行っております。血液の不足時や、医療機関から緊急の要請があった場合にも、即時に情報発信ができるため、献血者と患者を繋ぐ救命のネットワークとしてその重要性は年々高まっております。その他、県内の献血会場、キャンペーンやイベント情報などのお知らせを行うなど、献血者と血液センターを繋ぐツールとしても活用しています。

令和元年度は、献血依頼・要請メールやキャンペーン・イベントのお知らせメールを合わせて、延べ793,760名の方へ配信し40,053名（応諾率5.0%）の方にご協力をいただいております。

今後も継続的に会員数増加に努めるとともに、より良いサービスを提供し、会員の皆様にとって利便性の高い情報ツールにして参ります。

**ラブラッド会員数 33,739名**（令和2年3月31日現在）

## 献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター・ロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。

※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。



献血サポーター

# 骨髄ドナー登録事業

日本赤十字社と骨髄データセンター事業（造血幹細胞事業）の関わりは、平成3年度に国からの依頼を受け、骨髄データバンク登録事業者として中央骨髄データセンター及び各地域骨髄データセンターを設置し、骨髄バンクドナー登録希望者を受け入れることから始まりました。

新たな動きとして日本赤十字社は、平成25年10月1日に国から「造血幹細胞提供支援機関」の指定を受けました。（関連法「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」平成26年1月1日施行）

支援機関の主な業務として、献血現場における骨髄ドナー登録推進活動が挙げられます。群馬県赤十字血液センターは、群馬県及び群馬県骨髄バンク推進連絡協議会と協同して、県内の骨髄バンクドナー登録を推進しております。

令和元年度、群馬県内の骨髄ドナー登録者数は805名でした。その内、献血バスと併行した骨髄ドナー登録会（献血併行型登録会）では、557名の登録をいただいております。

## 令和元年度 骨髄ドナー登録受付状況

単位：人

受付施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高崎駅献血ルーム Harmony	11	17	6	8	4	15	9	7	4	3	2	10	96
前橋献血ルーム	11	8	7	5	13	11	6	3	5	4	2	3	78
太田献血ルーム	13	4	10	2	9	10	4	6	2	4	3	7	74
献血併行型登録会	39	55	45	39	51	40	58	53	38	28	36	75	557
合計	74	84	68	54	77	76	77	69	49	39	43	95	805

## 令和元年度 骨髄ドナー登録取消状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
取消者数	20	26	23	19	35	16	28	17	45	32	18	23	302

取消の主な要因は、「年齢超過」や「調整結果」などによるものです。

## 骨髄ドナー登録状況

群馬県内 〔全国〕

総登録者数：9,151人 〔827,854人〕

実登録者数：6,163人 〔529,966人〕

登録取消者数：2,988人 〔297,888人〕

令和2年3月31日現在

## 群馬県内の骨髄ドナー登録受付窓口（固定施設）

- |                   |   |                                   |
|-------------------|---|-----------------------------------|
| ○前橋献血ルーム          | } | 〔受付時間〕 10：00～12：00<br>14：00～17：00 |
| ○高崎駅献血ルーム Harmony |   |                                   |
| ○太田献血ルーム          | } | 〔休業日〕 年末年始                        |
|                   |   |                                   |

# 検査・製剤の概況

群馬県で献血していただいた血液は、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所へ運ばれ、血液型や感染症などの検査を行い輸血用血液製剤として製造されます。

その後、製造された輸血用血液製剤は群馬県赤十字血液センターに届けられ学術情報・供給課で保管しています。

## 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の業務



- 開設年月日 平成24年2月14日
- 所在地 〒355-0071  
埼玉県東松山市大字新郷493-1
- 敷地面積 9,787.08 m<sup>2</sup>
- 建物の構造 鉄骨造地上3階建
- 延床面積 11,947.31 m<sup>2</sup>

関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所は、関東甲信越8都県（群馬県、埼玉県、栃木県、新潟県、長野県、茨城県、山梨県及び東京都の一部）で献血していただいた血液の検査及び製造業務を行う施設です。

### ●検査

輸血による副作用や感染症予防のために血液型検査、感染症関連検査、献血者にお知らせする生化学検査、血球計数検査などを行います。

#### 検査項目

- ・血液型検査：  
A B O血液型検査、Rh血液型検査、不規則抗体検査
- ・感染症関連検査：  
梅毒血清学的検査、B型肝炎ウイルス検査(HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体)、C型肝炎ウイルス検査(HCV抗体)、エイズウイルス検査(HIV-1、2抗体)、HTLV-1抗体検査、ヒトパルボウイルスB19検査
- ・生化学検査：  
ALT、γ-GTP、総蛋白(TP)、アルブミン(ALB)、アルブミン対グロブリン比(A / G比)、コレステロール(CHOL)、グリコアルブミン(GA)
- ・血球計数検査：  
赤血球数(RBC)、ヘモグロビン濃度(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、平均赤血球容積(MCV)、平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)、平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)、白血球数(WBC)、血小板数(PLT)
- ・核酸増幅検査：  
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査、エイズウイルス検査

このほか、必要に応じてHLA関連検査(HLA抗原検査・HLA抗体検査・血小板抗体検査)、まれな血液型検査、サイトメガロウイルス抗体検査等を行って、患者さんに適合した輸血用血液製剤を供給しています。



検査作業



検査機器



## ●製 剤

現在の輸血医療は必要な成分を輸血するために成分ごとに輸血用血液製剤として調製されます。また、輸血による副作用を予防するために保存前に白血球の大部分を取り除き、血漿製剤以外には、放射線を照射しています。

このように安全性の高い血液製剤の製造を行っています。



血液成分の分離作業



放射線照射作業



フィルトレーション作業（白血球除去）

## ●品質管理

輸血用血液製剤及び血漿分画製剤用原料血漿の安全性、品質及び均質性の確保を図るために、受入試験にて原料・資材・試薬の品質確認を実施しています。また、製品抜取試験（製品試験、無菌試験、凝固試験）、白血球数試験を実施し、各製剤の品質の確認を実施しています。

さらに、「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理規則（GMP省令）」に規定されている要件を遵守して、各部門の作業が適正に行われているかを管理しています。



クリーンベンチ（無菌試験用）



無菌試験（培地）

# 供給の概況

群馬県赤十字血液センターでは12台の献血運搬車を配備しています。24時間365日体制で、県内すべての医療機関からの注文に対し、必要な輸血用血液製剤を供給しています。また、要請に応じて緊急輸送も行っており、179件の要請がありました。

献血由来の血漿分画製剤は、平成27年3月末日を以って販売中止となりました。

令和元年度の総供給数は80,330本で、前年度に対しては627本増加（前年度比100.8%）しました。供給単位数では293,578単位で、前年度に対しては3,680単位増加（前年度比101.3%）しました。

## 1. 血小板製剤

供給単位数は159,450単位で、前年度に対して2,295単位増加（前年度比101.5%）しました。血小板減少症を伴う疾患や大量出血時などに使用され、今日の輸血医療においては欠かすことのできない血液製剤であり、総供給数に占める血小板製剤の構成比は54.3%と最も高くなっています。全国的な需要傾向（全国平均前年比101.3%）に対して、当県においては前年度より若干増加しました。

平成28年9月13日から、照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給を開始しました。

## 2. 血漿製剤

供給単位数<sup>※</sup>は32,833単位で、前年度に対して1,415単位増加（前年度比104.5%）しました。

全国的な需要傾向（全国平均前年比98.6%）に対して、当県においては前年度より若干増加しました。

<sup>※</sup>平成29年度より200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位、成分献血由来製剤を4単位として換算

## 3. 赤血球製剤

供給単位数<sup>※</sup>は101,295単位で、前年度に対して30単位減少（前年度比99.9%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年比100.8%）に対して、当県においては前年度より若干減少しました。

<sup>※</sup>200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位として換算

## 4. 全血製剤

令和元年度は供給がありませんでした。



## 医薬情報活動の概況

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を「医療関係者に提供し、使用された際の情報を収集し、適切に分析・評価された結果を医療関係者へフィードバックする」これら一連の役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術情報・供給課 学術係がその業務を行っています。なかでも、輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置づけられており、平成30年1月には副作用・感染症における調査方法が一部変更されました。また、血液製剤の取り扱いに関する問い合わせの対応や医療関係者への勉強会を実施することで、有限で貴重な血液製剤を適正に使用して頂くよう活動しています。

安全かつ適正な輸血療法を目指すため、平成18年には県内医療機関、行政、血液センターが三位一体となった「群馬県合同輸血療法委員会」が設置され、事務局として委員会の活動を支援しています。平成29年度には委員会内に輸血関連看護師会を新たに設置し、県内の学会認定・臨床輸血看護師を中心に活動を開始しました。輸血実態調査については、令和元年度は日本輸血・細胞治療学会の輸血機能評価認定制度（I&A制度）をテーマに調査を行い、第14回群馬県合同輸血療法委員会では、その調査結果の報告やI&A認定を取得した県内医療機関よりI&A制度認定に向けた取り組みについて説明をして頂きました。また、血液製剤の適正使用を推進する活動として、委員会による医療機関訪問と学術講演会（東京医科大学八王子医療センター 田中 朝志 先生による「輸血の安全性向上と人材育成のためのI&Aの活用」）を行いました。



医療関係者への情報提供



医療機関での輸血勉強会

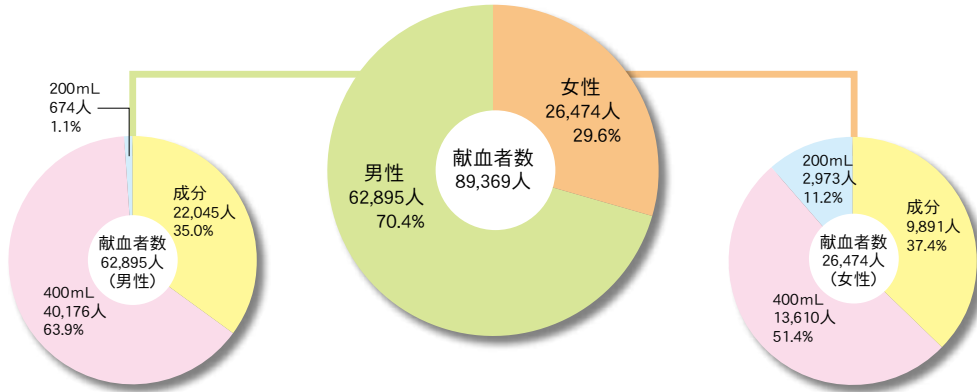


群馬県合同輸血療法委員会

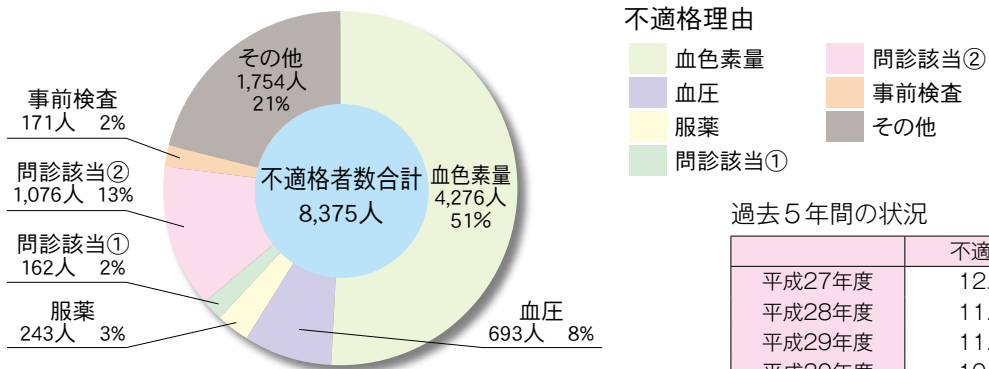
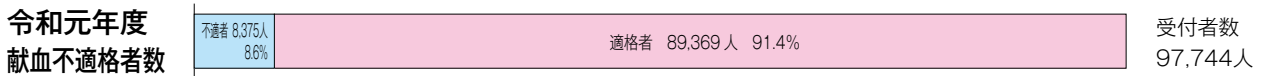
# 統計資料

## 令和元年度 献血状況

年月	項目	献血ルーム		採血車		出張		計			
		受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	男	女
令和元年度計			53,426		35,405		538		89,369	62,895	26,474
		57,747	31,936	39,390	0	607	0	97,744	31,936	22,045	9,891
			20,683		32,601		502		53,786	40,176	13,610
			807		2,804		36		3,647	674	2,973



## 献血出来なかった人の状況



過去5年間の状況

年度	不適格率
平成27年度	12.9%
平成28年度	11.0%
平成29年度	11.2%
平成30年度	10.8%
令和元年度	8.6%

血色素量 … 血色素量が採血基準を満たさない場合

血圧 … 血圧が採血基準を満たさない場合

服薬 … 注射・服薬の状態が問診の基準を満たさない場合

問診該当① … B型C型肝炎ウイルス保有者、輸血歴・臓器移植歴のある人、C型肝炎の既往、慢性B型肝炎、原因不明の肝炎の既往、乾癬の治療にチガソン服用、梅毒の既往、マラリアの既往、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)の関連事項、HIVの関連事項、シャーガス病・アフリカトリパノソーマ症、リーシュマニア症の既往、バベシア症、vCJDに関連した欧州滞在歴

問診該当② … 問診該当①以外に問診上不適格な理由がある場合(体調不良、海外帰国後4週間以内等)

事前検査 … 血算・心電図等で不適格の場合

その他 … 献血者の意思変更、時間無し、血管が細いなどの理由で不適格の場合

### 献血不適格者の状況

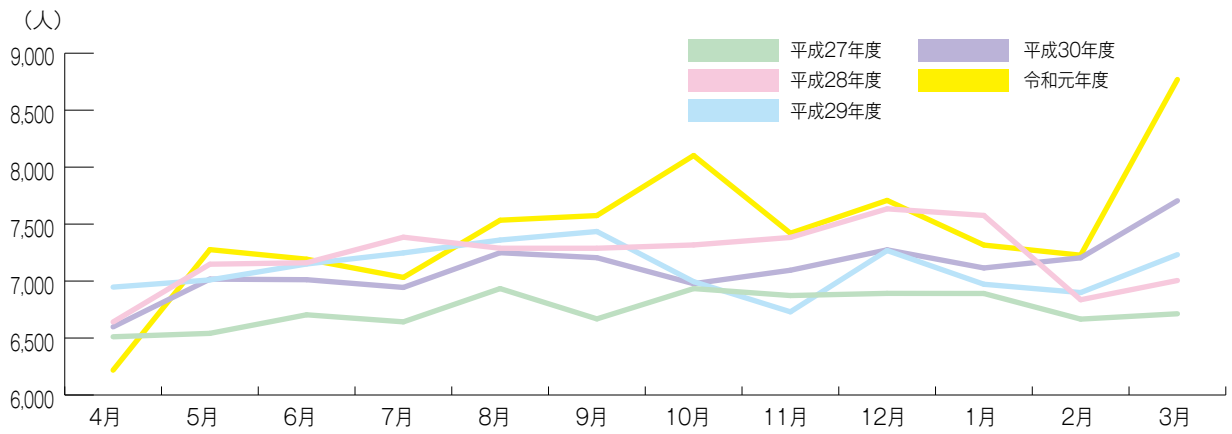
不適格理由	血色素量	血圧	服薬	問診該当①	問診該当②	事前検査	その他	合計
男	896	495	163	76	622	108	701	3,061
女	3,380	198	80	86	454	63	1,053	5,314
合計	4,276	693	243	162	1,076	171	1,754	8,375

# 令和元年度 市町村別献血者数

	人口 (A)	受付者数	全血献血者数			成分献血者数			総献血者数 (B)	献血率 (B)/(A)
			200mL	400mL	計	血小板成分	血漿成分	計		
合計	1,930,002	97,744	3,647	53,786	57,433	7,963	23,973	31,936	89,369	4.6%
前橋ルーム		17,527	183	5,761	5,944	2,499	7,810	10,309	16,253	
高崎ルーム		21,768	522	8,364	8,886	2,642	8,514	11,156	20,042	
太田ルーム		18,452	102	6,558	6,660	2,822	7,649	10,471	17,131	
管内 合計		39,997	2,840	33,103	35,943	0	0	0	35,943	
前橋市	332,097	7,278	560	5,949	6,509	0	0	0	6,509	2.0%
前橋市保健所管内 計	332,097	7,278	560	5,949	6,509	0	0	0	6,509	2.0%
高崎市	367,640	7,118	639	5,724	6,363	0	0	0	6,363	1.7%
高崎市保健所管内 計	367,640	7,118	639	5,724	6,363	0	0	0	6,363	1.7%
渋川市	73,816	1,178	138	940	1,078	0	0	0	1,078	1.5%
榛東村	14,221	376	2	343	345	0	0	0	345	2.4%
吉岡町	22,128	811	13	715	728	0	0	0	728	3.3%
保健福祉事務所管内 計	110,165	2,365	153	1,998	2,151	0	0	0	2,151	2.0%
伊勢崎市	210,324	6,874	74	6,100	6,174	0	0	0	6,174	2.9%
玉村町	36,055	558	27	472	499	0	0	0	499	1.4%
保健福祉事務所管内 計	246,379	7,432	101	6,572	6,673	0	0	0	6,673	2.7%
安中市	55,214	924	29	847	876	0	0	0	876	1.6%
保健福祉事務所管内 計	55,214	924	29	847	876	0	0	0	876	1.6%
藤岡市	63,168	1,091	34	948	982	0	0	0	982	1.6%
上野村	1,077	29	0	26	26	0	0	0	26	2.4%
神流町	1,612	44	7	29	36	0	0	0	36	2.2%
保健福祉事務所管内 計	65,857	1,164	41	1,003	1,044	0	0	0	1,044	1.6%
富岡市	47,331	959	31	836	867	0	0	0	867	1.8%
下仁田町	6,512	113	11	93	104	0	0	0	104	1.6%
南牧村	1,631	14	0	13	13	0	0	0	13	0.8%
甘楽町	12,730	87	6	71	77	0	0	0	77	0.6%
保健福祉事務所管内 計	68,204	1,173	48	1,013	1,061	0	0	0	1,061	1.6%
中之条町	15,372	342	50	269	319	0	0	0	319	2.1%
長野原町	5,081	126	20	96	116	0	0	0	116	2.3%
嬬恋村	9,162	130	16	105	121	0	0	0	121	1.3%
草津町	6,125	90	3	75	78	0	0	0	78	1.3%
高山村	3,481	24	0	21	21	0	0	0	21	0.6%
東吾妻町	12,639	616	3	550	553	0	0	0	553	4.4%
保健福祉事務所管内 計	51,860	1,328	92	1,116	1,208	0	0	0	1,208	2.3%
沼田市	45,269	1,229	106	980	1,086	0	0	0	1,086	2.4%
片品村	3,970	76	4	61	65	0	0	0	65	1.6%
川場村	3,517	142	5	123	128	0	0	0	128	3.6%
昭和村	6,899	132	5	109	114	0	0	0	114	1.7%
みなかみ町	17,523	379	35	302	337	0	0	0	337	1.9%
保健福祉事務所管内 計	77,178	1,958	155	1,575	1,730	0	0	0	1,730	2.2%
太田市	221,607	3,580	373	2,875	3,248	0	0	0	3,248	1.5%
保健福祉事務所管内 計	221,607	3,580	373	2,875	3,248	0	0	0	3,248	1.5%
桐生市	106,936	2,298	376	1,679	2,055	0	0	0	2,055	1.9%
みどり市	49,250	498	11	437	448	0	0	0	448	0.9%
保健福祉事務所管内 計	156,186	2,796	387	2,116	2,503	0	0	0	2,503	1.6%
館林市	74,208	1,098	123	834	957	0	0	0	957	1.3%
板倉町	14,148	311	38	247	285	0	0	0	285	2.0%
明和町	10,873	281	28	237	265	0	0	0	265	2.4%
千代田町	10,866	300	4	260	264	0	0	0	264	2.4%
大泉町	41,847	670	62	544	606	0	0	0	606	1.4%
邑楽町	25,673	221	7	193	200	0	0	0	200	0.8%
保健福祉事務所管内 計	177,615	2,881	262	2,315	2,577	0	0	0	2,577	1.5%

人口データ：群馬県企画部統計課作成「移動人口調査」令和2年4月1日現在

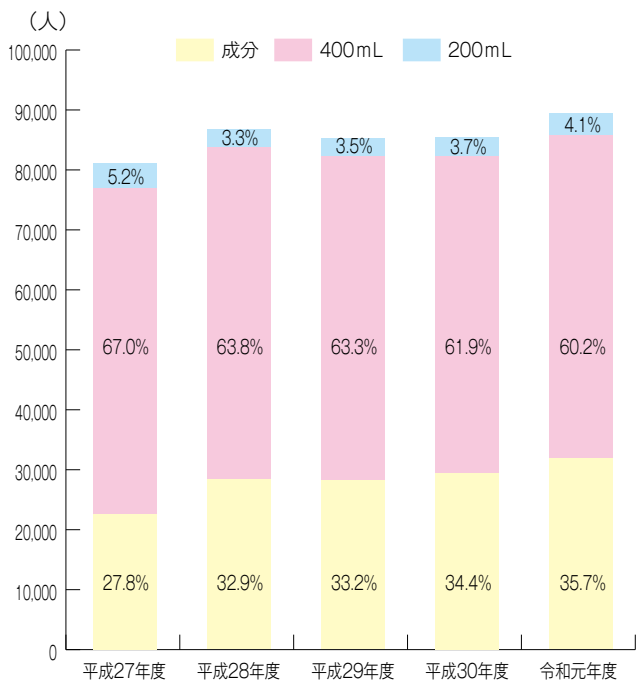
## 過去5年間の月別献血状況



(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度別月平均
平成27年度	6,511	6,541	6,704	6,642	6,934	6,668	6,934	6,873	6,892	6,891	6,666	6,713	80,969	6,747
平成28年度	6,641	7,148	7,161	7,385	7,288	7,288	7,317	7,383	7,634	7,576	6,836	7,005	86,662	7,222
平成29年度	6,947	7,010	7,150	7,247	7,360	7,435	6,995	6,730	7,268	6,972	6,899	7,232	85,245	7,104
平成30年度	6,598	7,017	7,012	6,944	7,249	7,205	6,977	7,095	7,274	7,115	7,204	7,705	85,395	7,116
令和元年度	6,218	7,276	7,192	7,032	7,534	7,575	8,102	7,420	7,708	7,316	7,227	8,769	89,369	7,447
月別平均	6,583	6,998	7,044	7,050	7,273	7,234	7,265	7,100	7,355	7,174	6,966	7,485		

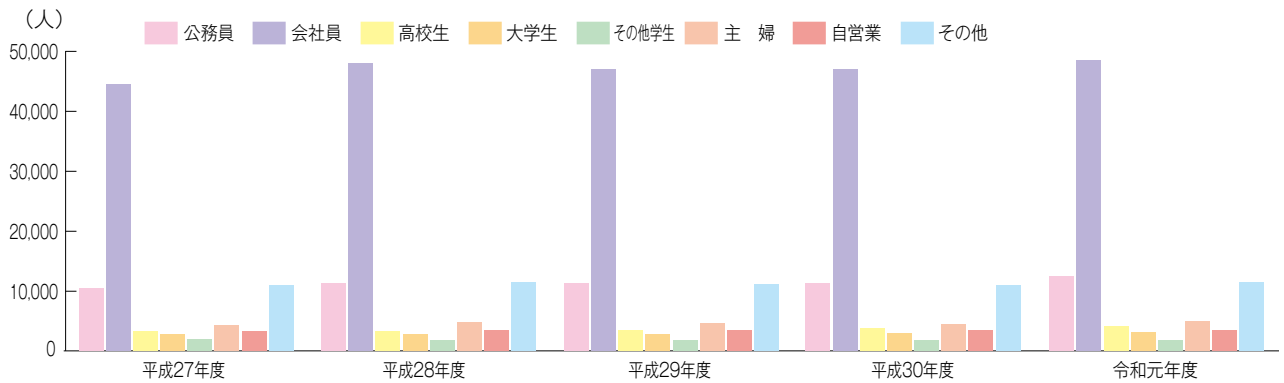
## 過去5年間の採血別献血者状況



(人)

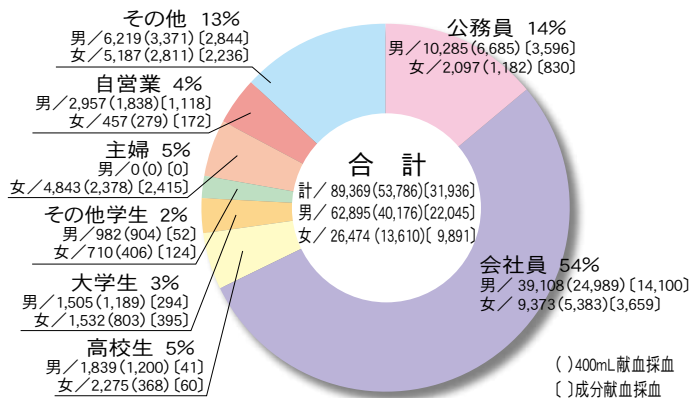
種別 \ 年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
成分	22,517	28,487	28,304	29,378	31,936
400mL	54,280	55,312	53,984	52,860	53,786
200mL	4,172	2,863	2,957	3,157	3,647
合計	80,969	86,662	85,245	85,254	89,369

## 過去5年間の職業別献血者状況

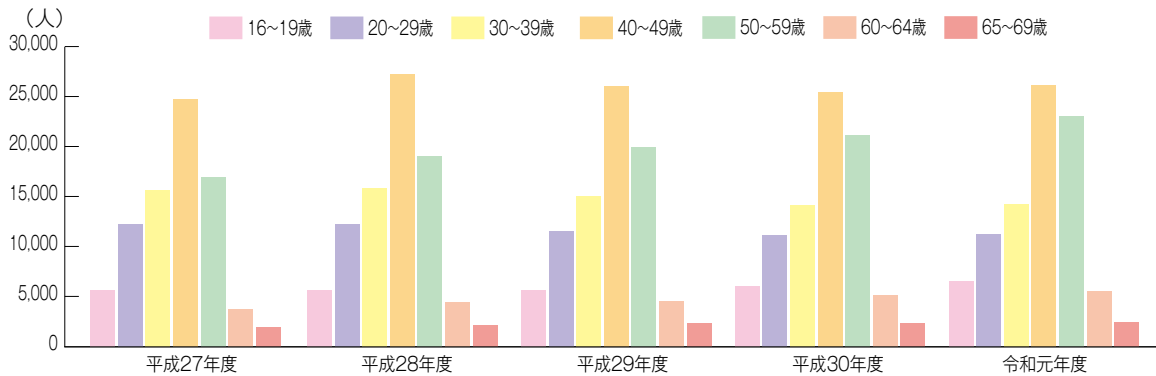


職業別	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
公務員		10,456	11,316	11,322	11,302	12,382
会社員		44,406	48,002	46,952	46,990	48,481
高校生		3,179	3,180	3,352	3,700	4,114
大学生		2,705	2,762	2,739	2,891	3,037
その他学生		1,865	1,747	1,750	1,697	1,692
主婦		4,236	4,813	4,644	4,496	4,843
自営業		3,256	3,449	3,417	3,407	3,414
その他		10,866	11,393	11,069	10,912	11,406
合計		80,969	86,662	85,245	85,395	89,369

■令和元年度職業別献血者数

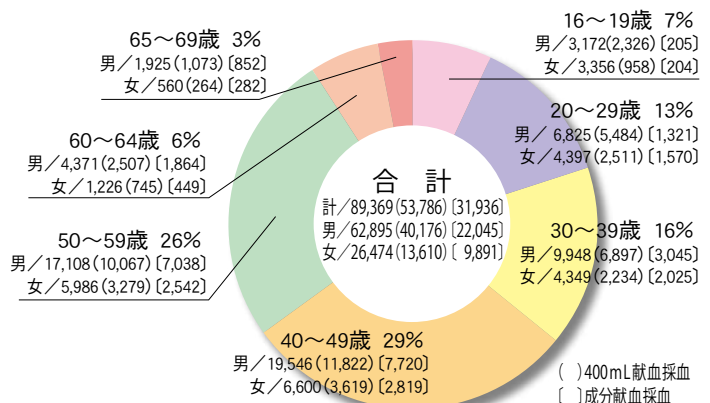


## 過去5年間の年齢別献血者状況



年齢別	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
16~19歳		5,610	5,650	5,665	6,027	6,528
20~29歳		12,255	12,223	11,601	11,148	11,222
30~39歳		15,698	15,889	15,060	14,147	14,297
40~49歳		24,755	27,233	26,076	25,476	26,146
50~59歳		16,949	19,066	19,961	21,127	23,094
60~64歳		3,793	4,420	4,558	5,141	5,597
65~69歳*		1,909	2,181	2,324	2,329	2,485
合計		80,969	86,662	85,245	85,395	89,369

■令和元年度年齢別献血者数



\*平成11年4月1日より60~64歳のあいだに献血経験のある方に限り65~69歳の献血が可能となった。

# 血液型別供給本数(管内)

(単位：本)

全血製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	人全血液-LR「日赤」		WB-LR-1	0	0	0	0
		WB-LR-2	0	0	0	0	0
照射人全血液-LR「日赤」		Ir-WB-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-WB-LR-2	0	0	0	0	0
	合計		0	0	0	0	0

(単位：本)

赤血球製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	赤血球液-LR「日赤」		RBC-LR-1	0	0	0	0
		RBC-LR-2	837	638	421	166	2,062
照射赤血球液-LR「日赤」		Ir-RBC-LR-1	1,116	926	683	270	2,995
		Ir-RBC-LR-2	17,646	14,660	10,164	4,602	47,072
洗浄赤血球液-LR「日赤」		WRC-LR-1	0	0	0	0	0
		WRC-LR-2	0	0	0	0	0
照射洗浄赤血球液-LR「日赤」		Ir-WRC-LR-1	7	5	0	10	22
		Ir-WRC-LR-2	2	2	1	0	5
解凍赤血球液-LR「日赤」		FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
照射解凍赤血球液-LR「日赤」		Ir-FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
合成血液-LR「日赤」		BET-LR-1	0	0	0	0	0
		BET-LR-2	0	0	0	0	0
照射合成血液-LR「日赤」		Ir-BET-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-BET-LR-2	0	0	0	0	0
	合計		19,608	16,231	11,269	5,048	52,156

\*平成26年8月より、赤血球濃厚液-LR「日赤」RCC-LR、照射赤血球濃厚液-LR「日赤」Ir-RCC-LRは、赤血球液-LR「日赤」RBC-LR、照射赤血球液-LR「日赤」Ir-RBC-LRへ変更。

(単位：本)

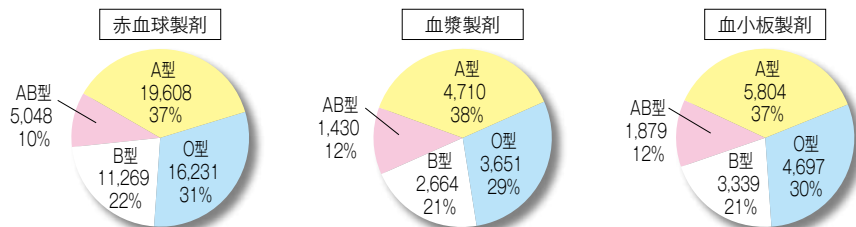
血漿製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」	120	FFP-LR 120	77	63	14	3
240		FFP-LR 240	3,152	2,355	1,768	983	8,258
480		FFP-LR 480	1,481	1,233	882	444	4,040
	合計		4,710	3,651	2,664	1,430	12,455

\*平成25年9月より、新鮮凍結血漿-LR「日赤」FFP-LR-1・FFP-LR-2・FFP-LR-Apは、FFP-LR 120・FFP-LR 240・FFP-LR 480へ変更。

(単位：本)

血小板製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	濃厚血小板-LR「日赤」		PC-LR-1	0	0	0	0
		PC-LR-2	0	0	0	0	0
		PC-LR-5	0	0	0	0	0
		PC-LR-10	84	81	25	30	220
		PC-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-LR-20	2	1	1	0	4
照射濃厚血小板-LR「日赤」		Ir-PC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-2	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-5	8	11	3	2	24
		Ir-PC-LR-10	5,358	4,230	2,969	1,696	14,253
		Ir-PC-LR-15	5	1	1	4	11
		Ir-PC-LR-20	71	59	35	56	221
濃厚血小板HLA-LR「日赤」		PC-HLA-LR-10	1	0	0	0	1
		PC-HLA-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
照射濃厚血小板HLA-LR「日赤」		Ir-PC-HLA-LR-10	170	141	200	51	562
		Ir-PC-HLA-LR-15	2	4	7	2	15
		Ir-PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
照射洗浄血小板-LR「日赤」		Ir-WPC-LR	89	169	96	24	378
照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」		Ir-WPC-HLA-LR	14	0	2	14	30
	合計		5,804	4,697	3,339	1,879	15,719

\*平成28年9月より、照射洗浄血小板-LR「日赤」、照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」供給開始



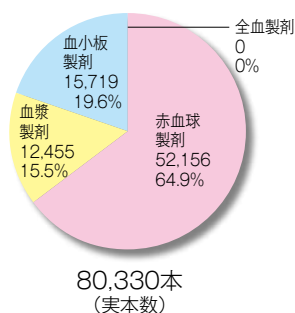


## 血液製剤種類別供給数(管内)

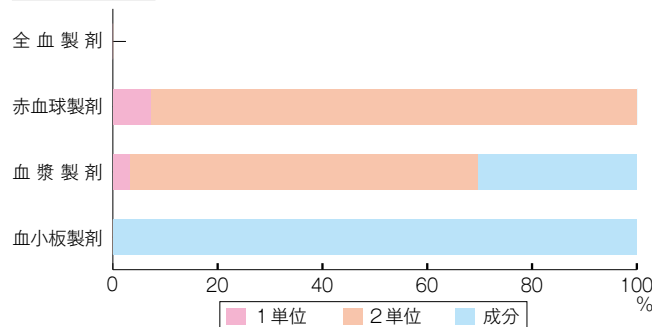
(単位：本)

	1単位製剤	2単位製剤	成分				本数合計	換算本数
			5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	
赤血球製剤	3,017	49,139	0	0	0	52,156	101,295	
血漿製剤	157	8,258	4,040	0	0	12,455	32,833	
血小板製剤	0	0	24	15,444	26	15,719	159,450	
合計	3,174	57,397	4,064	15,444	26	80,330	293,578	

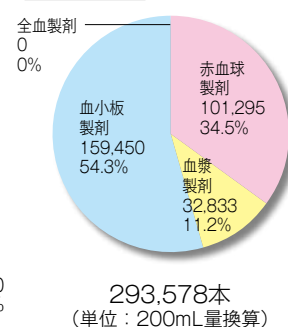
本数合計



献血由来別



換算本数

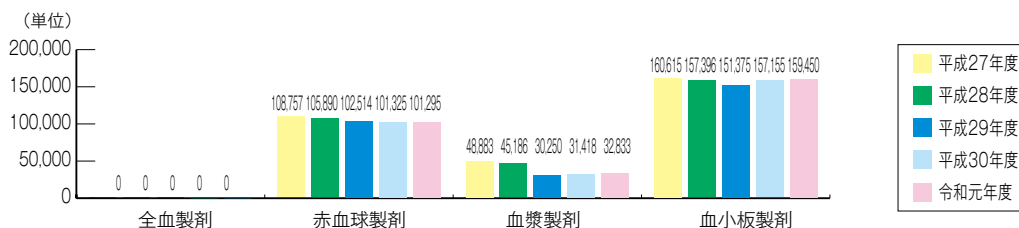


## 輸血用血液製剤の推移 (管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
平成27年度	318,255	0	108,757	48,883	160,615
平成28年度	308,472	0	105,890	45,186	157,396
平成29年度	284,139	0	102,514	30,250	151,375
平成30年度	289,898	0	101,325	31,418	157,155
令和元年度	293,578	0	101,295	32,833	159,450

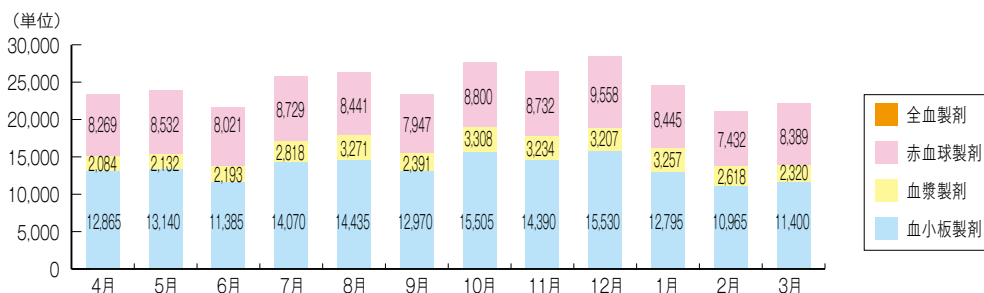
※平成29年度より血漿製剤の単位換算を変更



## 月別供給本数(管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	101,295	8,269	8,532	8,021	8,729	8,441	7,947	8,800	8,732	9,558	8,445	7,432	8,389
血漿製剤	32,833	2,084	2,132	2,193	2,818	3,271	2,391	3,308	3,234	3,207	3,257	2,618	2,320
血小板製剤	159,450	12,865	13,140	11,385	14,070	14,435	12,970	15,505	14,390	15,530	12,795	10,965	11,400
合計	293,578	23,218	23,804	21,599	25,617	26,147	23,308	27,613	26,356	28,295	24,497	21,015	22,109



# 令和元年度 表彰 (団体のみ表記)

群馬県と日本赤十字社群馬県支部は、献血協力者への感謝とともに県民各層に対し、一層の献血思想の普及と献血運動の推進を図るため、「献血推進県民大会」を開催し献血のご功労のあった方々を表彰しております。

(敬称略)

## ■厚労大臣 表彰状

高崎信用金庫

館林ライオンズクラブ

## ■厚労大臣 感謝状

クシダ工業株式会社八幡製作所

群馬県立渋川青翠高等学校

水上高原リゾート株式会社 水上高原ホテル200

東京パーツ工業株式会社

ハナマルキ株式会社 大利根工場

群馬マルハン

高崎商科大学附属高等学校 キッズ献血ボランティア

国定ライオンズクラブ

リレー・フォー・ライフ・ジャパンぐんま実行委員会

富岡商工会議所青年部

公益社団法人 群馬県歯科技工士会

群馬県商工会青年部連合会

一般社団法人 おおらか青年会議所

高崎中央ライオンズクラブ杯ドッジボール実行委員会

NTT東日本群馬支店

高崎ライオンズクラブ

高崎城ライオンズクラブ

高崎三山ライオンズクラブ

高崎リバティライオンズクラブ

群馬セキスイハイム株式会社

群馬県立前橋商業高等学校インターアクト部

共愛学園インターアクトクラブ

レンゴー労働組合 前橋支部

前橋東ライオンズクラブ

## ■群馬県献血推進特別功労者 (団体)

株式会社前橋LIXIL製作所

群馬県立高崎女子高等学校

群馬県立富岡実業高等学校

桐生信用金庫

株式会社アルファ

## ■群馬県献血推進協議会長感謝状

株式会社 ヤマト

東邦亜鉛株式会社安中製錬所

大同特殊鋼株式会社渋川工場

デンカ株式会社渋川工場

医療法人社団三思会 くすの木病院

医療法人社団三思会 東邦病院

三菱電機株式会社 群馬製作所

館林中央ライオンズクラブ

利根沼田学校組合立利根商業高等学校

## ■日本赤十字社社長感謝状

一般社団法人 群馬県農協ビル

沖電気工業株式会社

ルネサスエレクトロニクス株式会社

関東電化工業株式会社渋川工場

学校法人 小倉学園 専門学校 群馬自動車大学校

---

■献血団体 金色有功章  
(20年以上)

群馬県立下仁田高等学校  
株式会社ベイシア  
マックス株式会社 玉村工場  
群馬県立太田産業技術専門校  
群馬県立館林商工高等学校

■献血推進団体 群馬県支部長感謝状金枠  
(10年以上)

碓氷安中ライオンズクラブ  
高崎北ライオンズクラブ  
ユニー株式会社けやきウォーク前橋  
株式会社プライムプレイス スマーク伊勢崎

■献血団体 銀色有功章  
(15年以上)

駒形フォルム  
田中貴金属工業株式会社富岡工場  
東亜工業株式会社新田工場

■献血団体 群馬県支部長感謝状金枠  
(10年以上)

パナソニックリビング首都圏・関東労働組合

■献血団体 群馬県支部長感謝状銀枠  
(5年以上)

協和キリン株式会社 高崎工場

■献血推進団体 金色有功章  
(20年以上)

高崎中央ライオンズクラブ

■献血推進団体 銀色有功章  
(15年以上)

月夜野ライオンズクラブ  
群馬県立金山総合公園 ぐんまこどもの国  
株式会社ジョイフル本田 新田店

# 令和元年度迄の献血記録

項 目	年 月 日	献血者数	摘 要	備 考	
開設以来延献血者数	令和2年3月末日	4,613,407人	自昭和37年11月 至令和2年3月		
開設以来母体延献血者数	平成10年8月末日	228,910人	自昭和37年11月 至平成10年8月		
開設以来献血ルーム延献血者数	令和2年3月末日	1,011,591人	自平成5年10月 至令和2年3月		
開設以来採血車延献血者数	令和2年3月末日	3,261,405人	自昭和37年11月 至令和2年3月		
開設以来出張延献血者数	令和2年3月末日	111,501人	自平成2年4月 至令和2年3月		
年 間 最 高 人 数	昭和60年度	131,336人			
月 間 最 高 人 数	昭和60年7月	13,420人		配車台数114台	
母 体 一 日 最 高 人 数	平成7年1月21日	168人			
献血ルーム一日最高人数	平成10年9月1日	140人	前橋ハートランド オープンニング		
出張採血一日最高人数	平成3年1月7日	230人	県 庁		
採血車一日最高人数	昭和60年11月19日	861人		配車台数5台	
採血車一台最高人数	昭和55年6月13日	311人	渋川高等学校		
市民献血一日最高人数	昭和59年2月16日	356人	桐 生 市	配車台数3台	
町民献血一日最高人数	昭和63年9月9日	175人	大 間 々 町		
官庁献血一日最高人数	平成2年1月5日	327人	県 庁	配車台数2台	
事業所献血一日最高人数	昭和60年2月27日	596人	沖電気高崎事業所	配車台数3台	
大学献血一日最高人数	昭和60年6月26日	311人	群馬大学教育学部	配車台数2台	
高校献血一日最高人数	昭和61年1月20日	546人	高崎工業高等学校	配車台数3台	
団体献血一日最高人数	昭和54年8月29日	420人	大間々ライオンズクラブ	配車台数2台	
施設別年間最高献血本数	市 民 献 血	昭和59年度	2,877人	桐 生 市	配車台数延29台
	町 民 献 血	平成4年度	941人	玉 村 町	配車台数延14台
	村 民 献 血	昭和61年度	724人	笠 懸 町	配車台数延5台
	官 庁 献 血	平成元年度	1,339人	県 庁	配車台数延9台
	事 業 所 献 血	昭和61年度	3,589人	三洋電機東京製作所	配車台数延26台
	大 学 献 血	昭和60年度	1,257人	群馬大学教育学部	配車台数延10台
	高 校 献 血	平成元年度	1,197人	樹 徳 高 校	配車台数延6台
	団 体 献 血（主催）	昭和57年度	1,774人	立正佼成会高崎教会	配車台数延16台
	団 体 献 血（協力）	平成11年度	4,202人	群馬県学生献血推進連合	献血実施場所延72箇所

---

あ ゆ み 令和 2 年 7 月

編 集 群馬県赤十字血液センター総務課  
発 行 群馬県赤十字血液センター  
印 刷 上毎印刷工業株式会社

---

群馬県赤十字血液センター 〒379-2154 前橋市天川大島町2-31-13  
電 話 027-224-2118  
<http://www.gunma-bc.org/>

---

 facebook.  
はじめました!

QRコードをスキャンして  
facebookページへアクセス!





日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society